広大な野鳥の聖地：
臨海公園では自然観察を楽しみ、海浜公園では水鳥を守り育てる

2018年2月（東京都江戸川区・葛西臨海公園/葛西海浜公園）

◆ラムサール条約登録をめざす

東京湾臨海部の自然環境を活かした葛西海浜公園は、人工的につくられた２つのなぎさと広大な水域には天然の干潟も存在し、数多くの野鳥や貝類・カニ類などの宝庫となっています。現在、野鳥保護関係者の努力もあって次回のラムサール条約登録の可能性も高いようです。

◆重要な湿地の維持と多種多様な水鳥の生息

国際的に重要な湿地を指定するには多くの基準（「9つの基準」）の確保が必要であり、水鳥の基準としては、「定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地」（基準5条）の確保と、「水鳥の種又は亜種の個体数の１％以上を定期的に支える湿地」（基準6条）が要件となっています。

岡村幸二（JRRN会員）